

1. タイトル

『履修革命』～学生の“学ぶ”モチベーション向上の為に～
“科目の見える化”を実現する

2. 課題認識

課題として「学生の大学離れ」に注目した。

その背景には・・・

- (1) 事務の効率化を追求した便利で、整備され過ぎた各種事務システムのため大学に直接来なくても、各種手続き等が出来てしまう。
- (2) 対人関係がうまくできず友達ができないなどで準引き籠もりになってしまう。
- (3) 基礎学力の低下も考えられ、講義についていけなくなる。
- (4) 履修登録の失敗、思った内容と講義内容が違い、結果、授業に出席しなくなってしまう。
- (5) 履修する科目が今後どのように生きるのかが見えず、各科目に対する漠然とした理解で履修登録を行い、結果、授業に出なくなってしまう。
- (6) 科目間の関係性が見えず、学ぶモチベーションが低下する。

などが考えられる。特に(4)、(5)、(6)は学生の本分である“学び”に関する問題点であり、大学の存在意義・価値に深く関わる事項である為、今回の課題として設定したい。

3. 討議内容

学生の“学ぶ”モチベーションを向上させ、大学に戻ってきてもらう。

そのためには・・・

学生生活のスタートである履修登録において、学生の興味・ニーズに応じた上手な履修を支援し、つまづきを解消することが必要である。具体的には「MIMA Searchの活用」と「科目紹介プロモーションビデオの制作」により、公開科目の内容を『見える化』し、履修登録前に学生に学習内容と科目間の関係性について理解を深めてもらい、学生の“学ぶ”モチベーションを向上させる。

4. 提案内容

PDCAサイクルによる継続的な点検と改善を提案

■PLAN

◆「MIMA Searchの活用」

教員による「MIMA Searchの活用」により、科目・講義内容の見直しと位置づけの再確認をする。また、身につくことが期待される能力および就職実績と履修の関連モデル作成・提示を行い、科目の見える化を実現。また、学生による「MIMA Searchの活用」により科目間関係性のイメージを把握しての履修が可能となる。

◆「科目紹介プロモーションビデオ(以下『科目紹介PV』)」の活用

「科目内容詳細説明」、「科目間関係性説明」、「ミニ講義」をデジタルコンテンツ化して「科目紹介PV」を制作して、履修前に大学ホームページ等で公開する。

また、その中に履修した学生の生の声（感想や評価など）を盛り込むことにより、充実した内容とする。この「科目紹介 PV」を学生が閲覧することにより、履修登録の最適化を図る。

■DO

◆履修登録実施

MIMA Search を使用し、自らの履修状況を体系的にとらえることができる。

◆講義出席

履修後、どうしても科目内容が合わなかった場合は、「履修取り消し・追加」を許可し、柔軟に対応できるようにする。また、受講できなかった期間の講義内容については“e-Learning”で補うことが可能。

■CHECK

◆履修状況および出席状況の測定（量的）

◆学生満足度の測定（質的）

前期・後期、各々の期末に Web による講義評価アンケートを実施する。

■ACTION

◆アンケート結果のフィードバック

教員に対してアンケート結果をフィードバックし、教員は以後の科目・講義の見直し、改善を行う。

◆次年度の履修検討

学生は講義評価アンケートを大学ホームページ等で閲覧し、MIMA Search で確認した単位取得状況をもとにして、次年度の履修科目の検討を行う。

5. 期待できる効果

以上の取り組みにより、履修する科目の学習内容と科目間の関係性が見え、履修科目が今後どのように生きるかが見える為、学生の興味・ニーズに応じた履修が可能となるだけでなく、進路を見据えた履修も可能となる。また、履修ミスマッチの減少も期待され、学生が本当に受けたい講義を見つけられる。また、PDCA サイクルによる継続的な取り組みにより、講義内容の質の向上も考えられる。

よって、「MIMA Search」及び「科目紹介 PV」の活用により、“科目の見える化”が実現し、学生のモチベーションが向上する。そうすれば、自然と学生は大学に戻ってくるようになる。のではないだろうか。

6. 討議のまとめと評価

各校の問題点を出し合い、同様の事例の取り組みや解決事例を紹介することができた。発表に向けての話し合いでは問題提起、解決策においてグループ討議がしっかりでき、解決策についてはPDCA サイクルモデルの要件を満たすことができたのではないかとと思われる。しかし、実際に実践することを前提とした、より現実的な手順について検討できると、より価値のある議論となったのではないかとと思われる。以上